



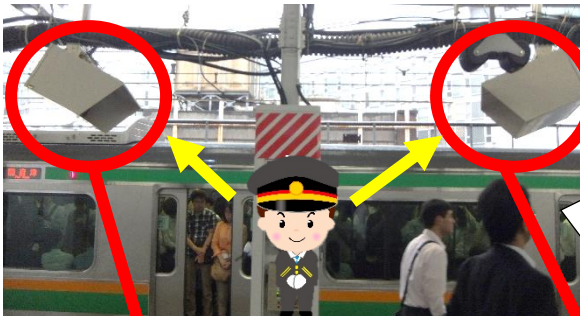
JR東日本は、施策の弊害を社員個人の責任に転嫁するな！

1、東海道線 新橋駅で発生した傷害事故の問題の本質は何か

東海道線 新橋駅でドア挟まりによる傷害事故が発生した。問題の本質は、効率化施策による「ホーム立ち番の廃止」に起因する。

新橋駅のホームの形状はS字であるため、ホーム立ち番が左右に設置されているモニター（6画面）を見て、乗務員に乗降が終わったことを知らせる合図を送っていた。しかし、会社はこの方法を廃止し、乗務員だけで全ての乗降を確認する方法へと変更したのである。

事もあるうに会社は当該乗務員の問題に切り縮め、再教育として「他の乗務員の基本動作やドア扱いを見る」といった精神論かつ根本的な解決に至らない2日間の日勤教育を行なった。



過去、ホーム上のあらゆる箇所を確認して駅係員が合図を出していた。



現在では、無理やり押し込んだ見づらい画面で乗務員にドア扱いさせる環境となっている。

2、事故原因を乗務員の問題にしようとした福知山線脱線事故

JR西日本では福知山線脱線事故から「人はミスをするという前提に立ち、安全をマネジメントするのが現在では当然の考え方。ヒューマンエラーは『結果』であって『原因』ではない」と考え方を改めた。

事故当時のJR西日本は「事故原因を会社の問題ではなく運転士個人の問題にあると言いたかった。これが会社内の大多数の意見だった」として事故調査報告書の記載内容の変更を依頼していたことが発覚。会社組織の防衛に走ったことが明るみとなり問題となった。

3、原因究明でなく責任追及へと回帰するJR東日本

JR西日本福知山線脱線事故から20年が経過したが、JR東日本で行われた今回の日勤教育は、会社施策に起因した問題をすり替え、乗務員個人の責任に切り縮めた事故当時のJR西日本の経営姿勢と全く同質だ。

原因究明でなく責任追及に回帰し、企業の保身に走るJR東日本の経営姿勢を断固許さず、連帯してたたかいをつくり出そう！